

福島県の森林環境税制度について

令和 2 年 4 月
福島県農林水産部

福島県の森林環境税制度について

+

1 森林・林業の課題

- 木材価格の低迷により素材生産が進まないことや、林業の担い手不足等により森林整備の停滞。
- 充実した資源を活かす時代となり、伐って、使って、植えて、育てる持続可能な森林経営による森林の整備・管理を進めていく必要

2 森林への関心の高まり

県民の森林に対する期待は多様化

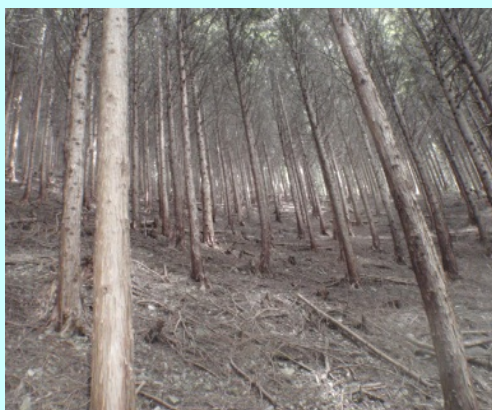
- 水を蓄え・水を浄化する森林機能の発揮。
- 山崩れや洪水などの災害を防止する森林機能の発揮。
- 二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防止する森林機能の発揮。
- 里山林や竹林など身近な森林の整備。
- 学校での森林環境教育・学習・活動の支援など「森林^{もり}づくりの提言」を踏まえた持続的な森林環境教育の推進。
- 持続可能な社会づくりに向けた充実した資源の利用促進。



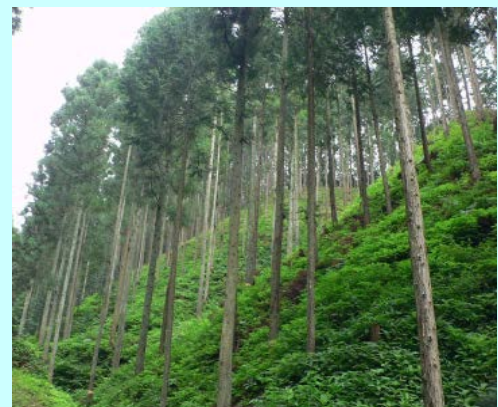
- ◎ 公益的機能の発揮のために
県民みんなで 森林御手入れを進めていく必要

3 荒廃した森林の整備

～ 多面的機能の持続的発揮に向けて ～



適切な
森林整備



- 木材価格の低迷、担い手不足などにより森林の管理が停滞
- 多面的機能が発揮されない
- ◎ 森林の整備の促進により多面的機能の持続的な発揮へ
- ◎ 人と森林の関わりを取り戻す

平成 18 年度に森林環境税の導入

■ 森林文化のくに・ふくしま県民憲章（H17.11 制定）

わたしたちは、

- 1 森林を敬い、あらゆるいのちを尊びます。
- 2 森林にふれあい、心豊かに生きます。
- 3 森林の恵みに感謝し、活かします。
- 4 森林を守り育て、未来へつなぎます。

■ 福島県森林環境税条例（平成 18 年 4 月 1 日 施行）

県は、森林の有する公益的機能の重要性にかんがみ、森林環境の保全及び森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成に関する施策の財源とするため、森林環境税を課する。

■ 福島県森林環境基金条例（平成 18 年 4 月 1 日 施行）

森林環境の保全及び森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成に関する事業に要する資金を積み立てるため、福島県森林環境基金を設置する。

■ 課税期間

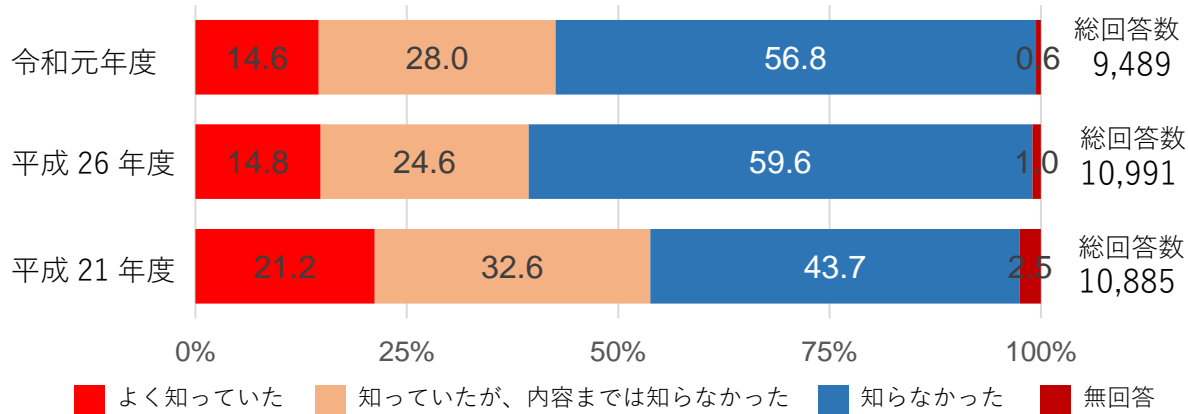
1 課税期間を 5 年として実施

- 第 1 期：平成 18 年度～平成 22 年度
- 第 2 期：平成 23 年度～平成 27 年度
- 第 3 期：平成 28 年度～令和 2 年度

◎ 課税額 個人：年額 1,000 円 法人：法人：法人県民税均等割額の 10%相当

森林環境税の認知度

あなたは「森林環境税」を知っていましたか。



第 3 期末（令和元年度）のアンケートでは認知度 42.6%となり、第 2 期末（平成 26 年度）と比較すると、3.2%上昇している。

森林環境税を活用した取組

■ 2つの基本目標

- 森林環境の保全
- 森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成

■ 7つの施策展開

- 1 森林環境の適正な保全
- 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり
- 3 市町村が行う森林づくり等の推進
- 4 県民参画の推進
- 5 ふくしまの森林文化の継承
- 6 森林環境の調査
- 7 森林環境基金の運営

■ 基本理念の実現

豊かな森林文化のくに、ふくしまの創造
～ 豊かな森林を未来の子どもたちへ ～

森林環境税を活用した取組 1 森林環境の適正な保全

■ 森林管理の推進



整備面積
29,521 ha
(H18～R2)
※ R2 は見込

水源かん養等の
機能を発揮

■ 里山林の整備



整備面積
210 ha
(H18～R2)
※ R2 は見込

身近な森林の整備

・ 獣害対策
・ 地域ぐるみで
森林づくり

森林環境税を活用した取組 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり

■ 間伐材搬出の支援



■ 東京 2020 大会サポート



■ 森と住まいのポイント



■ 森林とのふれあい創出



森林環境税を活用した取組 3 市町村が行う森林づくり等の推進

■ 森林環境基本枠

- ・森林環境学習の推進
- ・森林の適正管理推進



■ 地域提案重点枠

- ・県産材の利活用推進
- ・木質バイオマスの利用推進



■ 森林管理の推進

■ 第 69 回全国植樹祭ふくしま 2018
平成 30 年 6 月 10 日



■ ふくしま植樹祭 ABMORI
第 1 回 平成 30 年 11 月 4 日
第 2 回 令和元年 10 月 6 日



開催理念の継承

■ もりの案内人の養成



■ 森林認証の普及



SGEC 認証ロゴ

■ 森林ボランティア支援



森林環境税を活用した取組 5 ふくしまの森林文化の継承



第 2 章 曲物



第 7 章 カジコ焼き



第 14 章 漆掻き



公開体験会

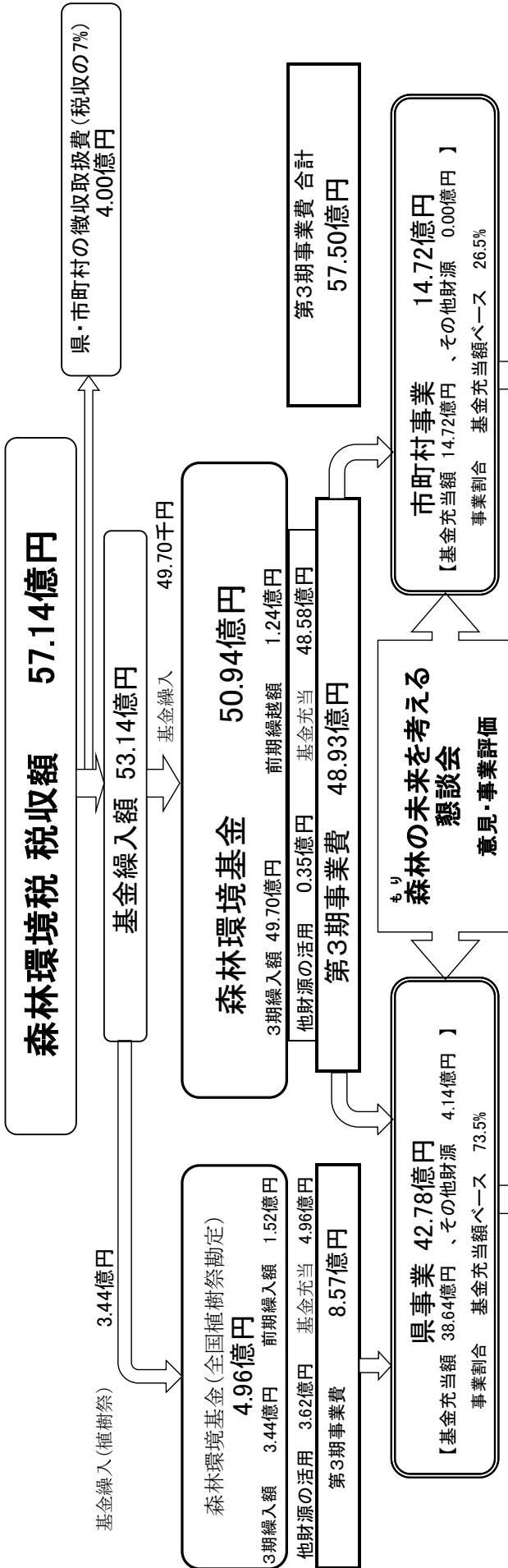
6 森林環境の調査



7 森林の未来を考える懇談会



第3期森林環境基金事業の枠組



<p>1 森林環境の適正な保全 3,093,434千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源かん養など機能の低下が懸念される森林整備等 森林の若返りや広葉樹林化のための再造林の支援 里山林の環境整備 施業集約化を促進するための支援 森林GISの整備による森林情報の高度化、共有化 	<p>2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり 909,132千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 間伐材の搬出・運搬支援 森林整備を促進するための路網整備 木質バイオマス利用促進 CO2削減と風評払拭に向けた県産材の普及PR 公共施設の木質化と木質活動の推進 木材利活用拡大に向けた新たな可能性への取組 地域に適した技術の継承による森林資源の活用 	<p>3 森林環境を保全するための事業 513,706千円</p> <p>(2) 地域提案重点枠 513,706千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村独自の優れた提案事業に重点的に取り組む財源(事業の対象分野) ア 県産材の利活用推進 イ 木質バイオマスの利活用推進 ウ その他 	<p>3 森林環境交付金事業 (1) 森林環境基本枠</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての市町村が継続的に森林づくりに取り組む財源(事業の対象分野) ア 県民参画の推進 イ 森林の適正管理推進 ウ 森林環境学習の推進 エ 森林整備の推進
<p>4 県民参画の推進 1,099,199千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林環境学習に必要なフィールドの整備 指導者の育成や森林ボランティアサポートセンターの運営等 森林ボランティアや企業による森林づくり活動の支援 県立学校における森林環境学習等 幼少期や青年期に拡大した森林環境学習等 流域の交流等様々な形で森林の理解を深める取組 森林環境情報の発信や森林づくり活動の拡大 全国植樹祭の準備 	<p>5 ふくしまの森林文化の継承 62,085千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の森林文化の継承に向けた記録と体験の取組 森林文化を活用した地域再生 	<p>6 森林環境の調査 16,363千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林の公益的機能の調査と発信 	<p>7 森林環境基金の運営 6,958千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林の未来を考える懇談会の開催
<p>森林環境を保全するための事業 3,093,434千円</p>	<p>森林環境を醸成するための事業 1,184,605千円</p>	<p>森林環境を保全するための事業 513,706千円</p>	<p>森林づくりの意識を醸成するための事業 958,119千円</p>

※ 令和2年度は見込額(当初予算)で集計